

八代市観光振興計画（後期）概要版

1 計画策定にあたって

（1）計画策定の背景

本格的な人口減少時代の到来また少子高齢化の進展などにより、これからの地域の活力の維持向上のためには、これまでに無い「人口減少」を前提とした施策の展開が必要となってきています。

国内に限らず世界的に見ても、観光は一大産業となっており、観光振興は、少子高齢化や地場産業の低迷に伴う地域社会の衰退を食い止め、コミュニティの再生を図るうえで、重要な施策の一つと捉えられています。

国の観光立国の実現に向けた各種施策の実施や熊本県が進める、ようこそくまもと観光立県推進計画の展開等を絶好の好機と捉え、「観光」を一つの手段とし、交流人口の増加による地域のにぎわい創出と地域活性化を目指していかなければなりません。

（2）計画策定の意義

本市では、大型クルーズ船の寄港増や九州三大祭りである八代妙見祭がユネスコ無形文化遺産に登録されるなどの明るい兆しがあり、これらのチャンスを本市の経済浮揚に確実に結び付けるため、総合的かつ戦略的・計画的に取り組むべき施策を明らかにしていかなければなりません。

また、平成28年4月に発生した熊本地震により、甚大な被害を受け、状況は大きく変化しました。観光産業は、農林水産業、製造業、商工業などの地域産業と関連が深く経済効果が大きい産業であり、即効性も高いため、早急な対策が求められています。

そのことから、インバウンド政策を重点的に取り組むとともに、本市における新たな地域資源の発掘と他地域との広域連携、さらに（一社）DMOやつしろ、民間事業者及び本市が一体となって、市民が誇れる観光都市の実現を目指していくため、八代市観光振興計画（後期）を策定することといたしました。

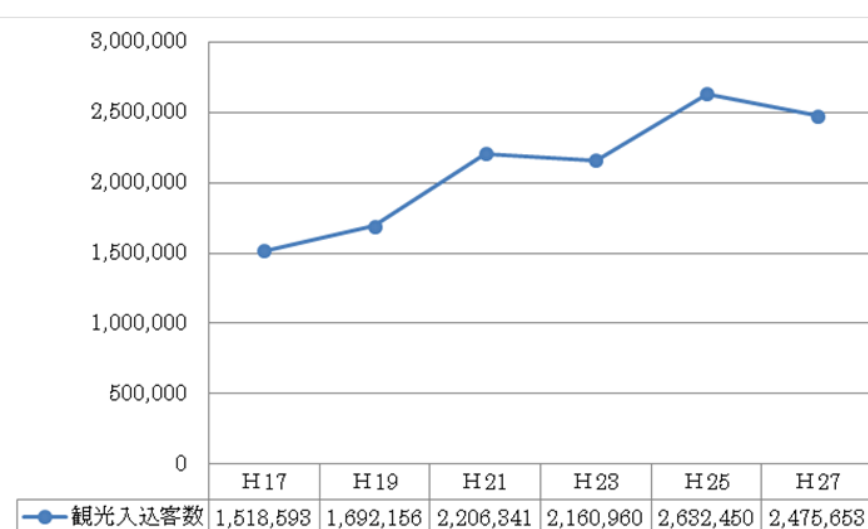
2 現状と課題

（1）八代市の現状

八代市では、平成27年10月に「八代市総合戦略」を策定し、平成27年度から平成31年度までの5年間で4つの基本目標を位置付け、交流人口の拡大を目指した観光振興策に取り組んできました。

その指標となる観光入込客数は、平成17年から観光入込客数も増加傾向にあるものの、平成27年は減少しています。

八代市観光入込客数



（2）環境の変化に求められる動き

- ・人口の減少、とりわけ地方における人口減少がスピード化
- ・国の成長戦略に観光政策を重点化
- ・訪日外国人の増加傾向にある
- ・東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据えた観光促進
- ・観光施策・観光振興に戦略性が欠けている
- ・観光圏のさらなる深化のため広域的な視点が必要

3 八代市の課題

- ①観光資源の磨き上げが十分でない
- ②観光情報発信力の不足
- ③滞在時間が短い
- ④観光消費額の低迷
- ⑤ターゲットの不明確さと戦略不足
- ⑥おもてなしの気運と人材不足
- ⑦観光推進体制の不足
- ⑧広域的な観光交流が進んでいない
- ⑨二次交通アクセスの不足

4 基本方針

【八代市の観光振興における理念】

八代の良さを知り 住む人が熱く語り始める

【八代市の観光振興におけるビジョン】

八代のそれぞれの魅力が光り、つながることによって質の高い時間を提供するまち

資源をつなぐ：地域資源を再発掘し磨きあげることによって、地域ごとの戦略が生まれます。

それらをつなげることで八代全体の魅力となります。

文化をつなぐ：地域らしさを形成する歴史や文化をつなぐことによって、地域への誇りを持ち伝えたいという意識を醸成します。

思いをつなぐ：人の「縁」や「絆」をつなぐことによって地域どうしの交流が生まれ一つ一つの出会いを大事にします。おもてなしの気持ちを高めます。

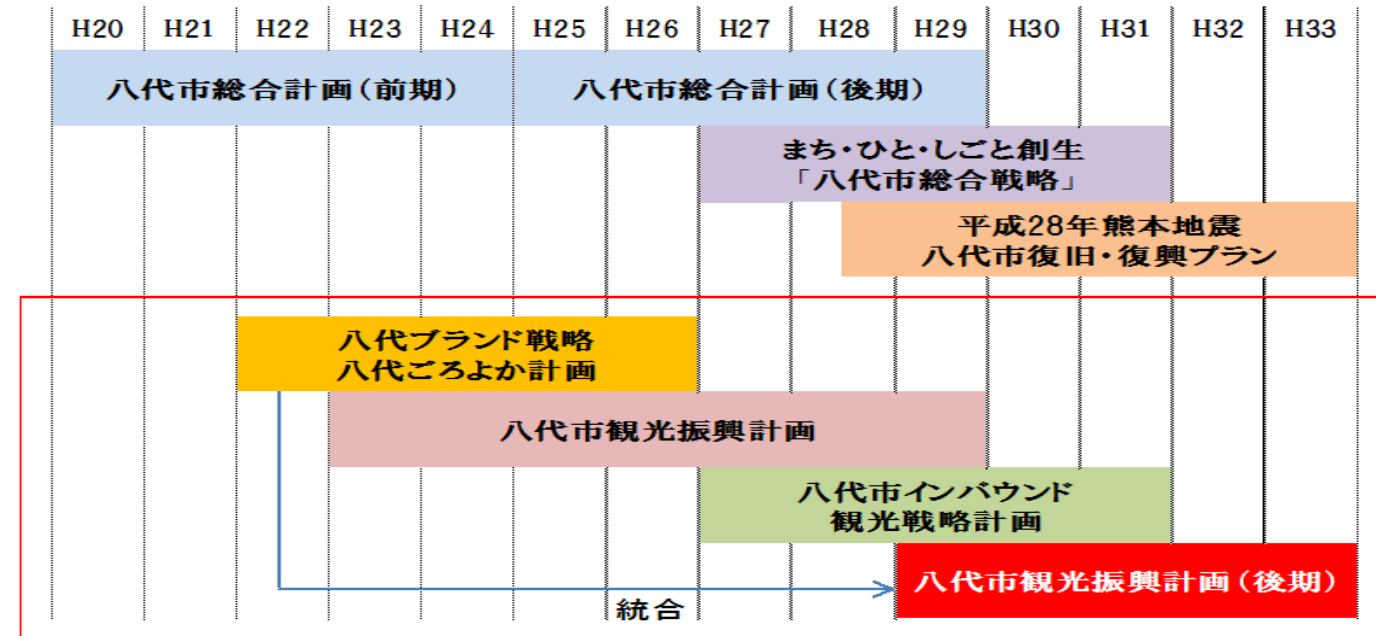
食をつなぐ：命の源「食」を見直し、安心・安全な地域の食を提供することによって観光客（お客様）や地域住民との関係性を構築します。

【コンセプト】

きなっせ やつしろ 小さな感動 心に残るおもてなし

5 計画の期間

計画の期間は、平成29年度から33年度までの5ヵ年とし、東京オリンピック・パラリンピックの開催と八代城築城400年に照準を合わせていきます。



6 役割分担

観光振興の主役は、事業者や観光関連団体などの民間であり、行政は、民間の主体的な取組が実現するよう環境づくりや支援を行っていかねばなりません。

- ①観光事業者の役割 ②DMOやつしろの役割 ③市民の役割 ④行政の役割

7 基本施策

基本施策	八代で体験・観光してもらう
1	地域資源の活用と観光コンテンツの開発 4事業
2	まちづくり観光人材の育成 3事業
3	MICEによる誘客推進 4事業
4	インバウンドの推進 4事業
5	山・里・海・川の魅力を活かした体験観光の推進 2事業
6	滞在観光の推進 2事業
7	重点エリアの指定 2事業
8	四季を彩るまつり・イベントの振興 2事業
基本施策	八代をしってもらう
1	効果的な情報戦略 3事業
2	イメージ戦略の展開 3事業
3	ICT活用による効果的な情報発信 2事業
4	マーケティング推進の強化 3事業

基本施策	八代を好きになって何度も来てもらう
1	観光をコーディネートするDMO八代の運営強化 3事業
2	広域観光の推進 3事業
3	フードバレーやつしろの創出 3事業
4	お客様の声を反映したまちづくり観光の推進 1事業
基本施策	八代に気軽に来てもらう
1	二次交通の整備強化 2事業
2	観光案内推進と便益施設の充実 4事業
3	環境保全・向上の推進 2事業
4	受入れ環境整備の推進 3事業
基本施策	八代を誇りに思ってもらう
1	市民意識の向上 2事業
2	市民力によるまちづくり観光 2事業
3	地域外応援団の活用 2事業

8 重点プロジェクト

【八代の歴史・文化を“感じる”プロジェクト】

八代城跡をはじめとする歴史文化遺産や自然豊かな景観など、名所・旧跡を線で結ぶ「ゆっくり・じっくり・楽しめる」観光ルートづくりに活用する取り組みを、観光事業者や観光ボランティアガイドなどと連携して進めていきます。また、滞在・体験型の観光企画を進めるなど、再び訪れたい魅力ある観光地づくりを推進します。

【まちなかで“感じる”プロジェクト】

まちなかには、史跡や歴史的建造物、伝統産業に根ざした建物、歴史上のゆかりの地などが多く点在しています。市立博物館や神社・仏閣とも関連づけ、ストーリー性を持たせ、歩いて楽しめる「まちなか観光」を推進します。

【広域連携で“繋がる”プロジェクト】

観光客は自治体単位で観光先を決めていません。また、二泊以上の旅行日程の場合、一つの観光地だけで観光客を満足させることはなかなか難しく、「1つないしは2つの観光エリアでじっくり滞在する観光」へ転換するため、旅行者の行動範囲にふさわしい、広域的に整合性のある観光行政、観光施策の展開を推進していきます。

9 成果指標

	2015年(平成27年)	2021年(平成33年)
観光入込客数	2,475,653人	2,843,000人
外国人観光客数	6,686人	18,000人
観光消費額	12,367,175千円	14,246,000千円

※外国人観光客数は、大型クルーズ船による訪日はカウントしていません。

